

人間生活学研究科の概要と特色

本研究科は、修士課程と博士後期課程で構成され、修士課程には人間発達学専攻人間発達学コース、人間発達学専攻臨床心理学コース、食品栄養学専攻、人間生活学専攻の3専攻・2コースが置かれ、博士後期課程には人間複合科学専攻1専攻が設置されている。さらに、修士課程の各専攻・コースには3～7研究分野が設けられ、博士後期課程の人間複合科学専攻には3研究領域が設けられている(表)。修士課程の研究分野と博士後期課程の研究領域との間には密接な関係があり、人間複合科学専攻の精神機能論領域は人間発達学専攻の両コースの研究分野に、保健栄養論領域は食品栄養学専攻の研究分野に、生活文化論領域は人間生活学専攻の研究分野にほぼ対応するものである。

表 人間生活学研究科の構成

修 士 課 程		博 士 後 期 課 程	
専 攻 ・ コ ー ス	研 究 分 野	専 攻	研 究 領 域
人間発達学専攻 人間発達学コース	発達基礎論 発達支援論 専門関連科目	人間複合科学専攻	精神機能論
人間発達学専攻 臨床心理学コース	臨床心理論 研究法分野 基礎分野 社会分野 精神・身体分野 心理支援分野 専門関連科目		
食品栄養学専攻	栄養管理学 栄養学 食品学		保健栄養論
人間生活学専攻	人間社会論 生活文化論 生活経営論 生活環境論		生活文化論

本研究科は、本学の建学の精神、すなわちキリスト教精神とリベラル・アーツ教育の伝統に基礎を置き、人間及び人間生活を精神活動、身体維持活動、文化活動の面からとらえ、実生活に即した研究を行うとともに、修士課程においては高度専門職業人を、博士後期課程においては自立した研究者並びに高度の研究能力をもつ専門的な職業人を養成することを目的としている。

この目的を達成するため、修士課程においては、上記3専攻・2コースのいずれかの研究分野で実務的、基礎的研究活動を行う。ここで学生に要求されるのは、研究活動を通して人間と社会の実態を学び、それぞれの専攻分野における社会的、教育的、文化的等の諸問題を把握し、基礎的問題解決能力を身につけること、換言するならば、リサーチマインドを持つことである。

これに対し、博士後期課程の人間複合科学専攻では、修士課程における実務的・基礎的研究活動を基盤にして、広い視点から社会的ニーズの高い研究を行う。ここでは、修士課程の3専攻・2コースが1専攻に統合されている。これは、人間及び人間生活を、精神機能論領域、保健栄養論領域、生活文化論領域の視点から深く、かつ豊かに追究するためである。